

本紙毎号送付希望の方は、宛名記入50円切手貼付の封筒とく10枚を二括事務所へお送り下さい。紙代無料

4.19 核燃料輸送抗議行動シナリオ風報告

とき、
 ① 4月19日(水)午後1時すぎ。春の日ざしが明るく眩しい。
 ② 同日午後5時すぎ。

所 ④ 名神高速豊中インターチェンジが付近にある。阪急電車「庄内」駅

野前の線路といふ處と道路は、踏切りまでびつこり、数台の自動車がかれてそのまゝ、また及料で、とうとうつがへた。感ひ。何々々々たる市場商店街の路とまではみ出した野菜、乾物、

果物の毒をいひなぐ。よび声の中をゆきかう買物カゴの主婦。コロッケの白い。と、いゆん

あたり一帯がゆき消えよふなり、ものすごい暴風雪、伊丹空港へ降りまくる。ジェット旅客機は、やがて「さゆめ」がよみがえり、みんなが再びうき出す。信用金庫を前に入口ドアを除いて

出店がひしめいている。

(吹田インター4エナジ近く・十里中、中央工機。)

③ ハイカラ田舎というのが、近代的ベクトルタウンの大きな関口のヒル。商店街、洋菓子店

でみやげを四つ、サクリマン、ホットドッグ、ヤブでたむろしている高校生。バスターミナならん、ドイス、すわつ、帰宅のバスをまつている人た。其色、さげし、びよつてい。

人。小道具の核燃料輸送トラツをはこぶ男へドクロマスク。を脱い

核燃料搬送中のゼリケン) 廿(ド名の誤章。核燃料搬送中のタスキ。

街並寸削のとき、秘燈花火に火をさける役。女 3、4、5、6（人）（麻草、肩タスキ。手に

(ビラ) 男8(ハンドマイク、ビラ、喉草・タスキ) 男9(カメラ喉草) 幼児

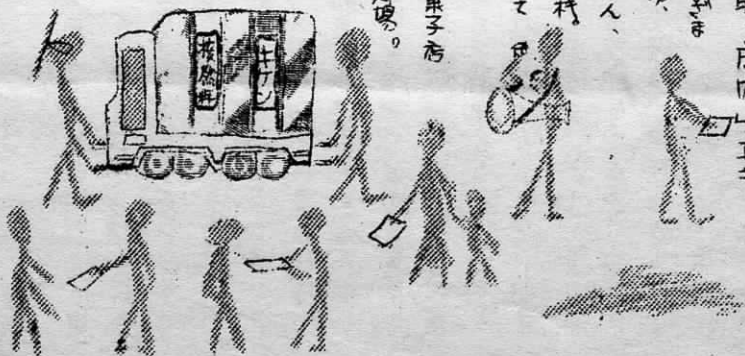
10.11 (セナカにドラクロのゼッケン) 全員11名(みんな上着は赤、下は黒いもの)

通行中の人々、ビラをうけとつたり、話かけてくる人々。あやせて八百人余り。

(ビラ約八百枚を用意。)

○ 町の状景、ゆきかう人々。ふと立ち止る、遠くの人ごみの方をみながみる。マイクの声、はつきり聞えない、巨んどん近く。子供が走

○ マイクへとつぜんはつきりと
お知らせします。お知らせです、
左内西町のみ



(Kou)

体、誰にあるとなうのでしょうか。

すぐ町内会や隣組で問題にし、今有無断で核燃料車が知らぬまに通っている、というようなことをやめさせましょう。……人々のざわめき——

途中でみんな起きあがり周囲の人たちに「あなたはこう思いますが」「この核燃料車のことは、ご存知でしたか」「このビラよんだらお隣りにもみせて上げて下さい」などと話しかける。

○しばらくして再び隊列。マイクしゃべり出す……

× × × × ×

8・9日神戸エンカウンタースクールで行った「非暴力直接行動トレーニング」を早速応用して、19日夜燃料輸送への抗議行動を、はじめ左内エキ附近でべついで阪急で車中、そこからバスで30分ほど——千里中央でビラまきをしている「土曜日グループ」と——しよに街頭寸劇とあわせたビラ配りをした。ちよつと二ヶ所でのいうのはくたびれたが、ビラがとぶように配れたし、それに「よく知らせてくれた」とか「ほんとにぞくろうさま」とか、アオヤのおじさんから「ネエちゃん達エライなあ」と感謝されたりして、ビラマキ至数回、回にもかつてないはげまじだった。

橋路、地下鉄での40分ほどの車中、スカットした解放感と何とない充実感で、ぐっすりねむった。思いきり本声をだし、体をうんとうごかしたせいだろう。街

頭がリフ寸劇的へ精神衛生健康法」ともいうべき効能である。18日夜、一生けん命一晩が、リでつくった像作小道具は、ダイジに保存してある。次の燃料輸送のときも、まちかまえて、またやろう（付記：実際は「チリヤ」でいい）（向井 彦）

英文ニュースライ NAMAZU 刊行

内容は、今号は特集（Japanese Fascism 1978）と題して、まずウリニュース知号で紹介した荒井まり子さんに対する出廷護送車中の言語に絶する暴行行為。○三里塚がニ鉄道の法手帳を無視し、捜索・差押えの令状で、破壊除去した無法ぶり。弁護士めき裁判を自論む法策の上程。それらの一連のうごき、にからんで天皇の政治的うごき。三里塚と天皇。三月二六日三里塚防衛管理施設占拠事件にともなう、政府権力側のうごきと問題点。三月のウリ事務所日記など、です。

これらの製作発行発送の費に約三万円。それを補うために、できれば友人知人、外国送りなどに利用して下さると多少でも助かります。送金一部二五〇円。五部千円で（あなたかよまないでも）買つて、まわして下さいませんか。回、オフセット 12頁。

記念印手や使用済切符のコレクションをしています。スタンピングで結構。お送り下さい

土田

伊方原案裁判の勝利を求める大阪集會

4月21日午後6時、P.L.P.會館、現地郡警署と日高町から定刻前にきてゐるのに、こちら側はほんの10人あまり、ちらほら、ところが30分おくれで南会館には60、70人、ク時ごろには100人をこし、ふりかえつてみれば、何人ほどになつていた。まず、

郡警署の紀南原案反対訴訟會會長熊さんの話で印象にのこつたことをかくと、――

★ 七割の反対、三割の推進サンセイ派。町民の反対署名で、訴訟會の決裁を反対にかへることができた。それが原因で南電とよくつていた町長は三ヶ月病氣で休み、一年後にはとうとう亡くなられた。餘で有名な大地町は全町が反対だが、古座町は金がなく、町長は同派議員をやりたいのが本心。そこで、両合いをみて、原案問題調査会をつくつて、そしてこの三月23日町議會へ、南電が来るで作成しような「答申書」を制して来た。(諮問委とが公聴會とか調査専門委とはみんなこんなもの)★ 原案反対運動のむずかしさは、私は政党的には無所感だが、政治的方々はもつてゐる。にもかゝわらず、大切なのは敵は誰か味方は誰かを見定めて運動をやらねばならぬということ。(もつと云へば党派にこだわるなということ)

ついで日高町の鈴木しずえさん。日高町小浦がまつ二つにわかれ校舎がつかない。小浦の女の人数36人と阿尾の女の人数18人とで、原案に反対する女の会といつたものをつくろうとしている。(ぼくは思わず手をたたいた)

さて本題の伊方裁判、証人に出た植田助さんから一時向あまり。植田さんがかゝつたかぎりの話として裁判で、いかに国側証人のエライ学者先生の智識がデタラメでインチキなものだつたか、具体的ひとつひとつをあげて「私の判断では、この裁判は必ず私たちが勝つ。論理的にも道理としても、勝つということしか考えられない」と断言。とすれば、方が一にも判決がこちらに敗訴ということになるとしたら、そればかりや裁判なんてものは、政治そのものでうごかされる信用できないものだ、という何よりの証明というわけである。このニュースが伝くころはすでに確定してゐるだろう。が、そうやすやすと、国側が買けたとなつたら、それこそ大革命。次の互撃の準備を用意しなくては、とこそ、本場に勝つ一段落となるだろう。(毎日・毎日・読者など各々がこのところ特別記事を書くのを待たせてきた。これを執筆するだけでも伊方裁判の大反のこととは判ると思ふ)

24日よる

「後記」ときどきウリニエース読者の感想を送つて下さい。本年からすこし編集方針をかえてゐるつもりです。

牟利乃奈加間乃 安伊古止改 喫天尔乃里越

牟利和殿 振替・大阪三三七ウリヤパン 向井存